

ENDLESS SPORTS

スーパー耐久シリーズ 2021 第3戦

ご報告書

5月21日（金）～5月23日（日）に
富士スピードウェイで行われました
スーパー耐久シリーズ 2021 第3戦における
[3号車 ENDLESS AMG GT4]
レース結果を以下の通り、ご報告申し上げます

開催日：2021.5.21～5.23

サーキット：富士スピードウェイ

チーム体制：エンドレススポーツ

ドライバー：内田優大／山内英輝

菅波冬悟／小河 諒

予選結果：——

決勝結果：優勝

シリーズランキング：ST-Z CLASS 1位

[予選／5月21日（金）] 3号車

衰える気配を見せない新型コロナウイルス感染症。東京を始め、日本各地で緊急事態宣言が発令される中でのレース開催……。延期、中止になってもおかしくない状況だったが、スピードウェイを始め、各チーム、関係者の努力により開催することができた。

今の時代、サーキットに足を運ばなくてもネットなどでレース状況も結果もすぐに入手できる。となれば、無観客レースでもいいのかもしれない。でも、当チームだけでなく多くのチーム関係者は、レーシングカーならではのEXノート、タイヤ交換シーンなどをサーキットまで足を運んでもらい、間近で見てもらいたいと思っている。

そんな願いが叶い、第3戦、富士ラウンドは開催された。ただ、予選は豪雨により中止。これも十分に予想されていたことだった。現在のスーパー耐久の原点は、1990年に始まったN1耐久にまで遡る。サーキットの改修により富士で開催されなかったシーズンもあったが、過去30回の開催中、約半分となる14回が梅雨時の5～6月に開催。当時からシリーズに参戦している当チームにしてみると、富士の耐久イコール雨という印象があり、今回の中止もそんなに驚くものではなかった。

決勝のスターティング・グリッドは、雨で予選が中止になった昨シーズンのSUGOラウンド同様、第2戦終了時のランキングにより決定された。当チームのランキングは7番手だったが、今回の富士ラウンドにエントリーしていないチームもあり、ST-Zクラスに参戦した9チーム中4番手。さらにエンジン載せ替えにより108号が最後尾に降格。当チームはクラス3番手からのスタートとなった。

[決勝／5月22日(土)～23日(日)] 3号車 優勝

スタート 5月22日 15時00分45秒

チェッカー 5月23日 15時03分35秒979

路面コンディション ドライ

FCY 導入 計16回

- 1回目 5月22日 15時54分20秒～15時55分44秒
- 2回目 5月22日 16時11分35秒～16時13分15秒
- 3回目 5月22日 17時18分44秒～17時25分16秒
- 4回目 5月22日 19時59分59秒～20時02分52秒
- 5回目 5月22日 21時35分15秒～21時37分30秒
- 6回目 5月22日 22時34分26秒～22時42分19秒 (SC導入に移行)
- 7回目 5月22日 23時26分24秒～23時29分20秒
- 8回目 5月23日 1時22分28秒～1時25分50秒
- 9回目 5月23日 2時31分40秒～2時34分27秒
- 10回目 5月23日 2時46分40秒～2時48分13秒
- 11回目 5月23日 4時16分19秒～4時19分50秒
- 12回目 5月23日 5時50分48秒～5時56分32秒
- 13回目 5月23日 9時05分25秒～9時09分24秒
- 14回目 5月23日 9時45分19秒～9時48分12秒
- 15回目 5月23日 10時00分53秒～10時04分27秒
- 16回目 5月23日 11時39分01秒～11時42分27秒

SC 導入 計3回

- 1回目 5月22日 22時42分～23時01分
- 2回目 5月23日 4時44分～5時17分
- 3回目 5月23日 8時44分～9時00分

予報通り、夜半には雨も上がり、決勝のスタートが切られる土曜日にはドライ路面に戻り、最高のレース日和となった。

木曜日の公開練習で速さを見せていたのが20号車BMW、885号車スープラ、47号車アストン。4月の練習走行でかなりセットが決まってきた当チームのAMGだが、速さという点で勝負するに

はまだまだ厳しい状況が続いている。このハンディはピット作業やレースの流れ、さらにはミスをも最小限に抑えることで戦っていくしかない。タイヤがピレリからハンコックに変更されているので、昨シーズンのデータすべてを参考にはできないが、1時間30分の走行で15回のピットストップを基本にレースを消化していく。

それ以上に当チームの最大の武器は、Aドライバーの内田優大、Bドライバーの山内英輝のコンビは、今シーズンで3年目。C&Dドライバーの菅波冬悟、小河 諒も当チームのST-4クラスのハチロクでステアリングを握り、チームの雰囲気はわかっている。各ドライバーの信頼関係ができてきているのは強い。

先にレース結果を伝えておくと、この信頼関係が勝利に大きくつながり、24時間3連覇を達成することができた。

まず、レース序盤は小さいミスが続いた。タイヤ交換、走路外走行、走行マナーなどで黒白旗が振られたりしたが、メカニックもドライバーも、このミスを取り返す頑張りを見せた。スタート直後に、6番手にまでポジションを下げるシーンもあったが、自分たちのペースで走っていると、すぐに3番手、2番手と上がっていく。レースの流れが大きく変わったのは、スタートから8時間が経過しようとしているあたりからだった。当初、予定していたピットストップのタイミングを1時間半間隔でより伸ばすことができていた。というのも、昨シーズン、6回だったFCYが8時間経過した時点で6回（最終的に16回）も導入されていた。燃費がよくなれば、ピットストップのタイミングを遅らせる。最終的にピットストップの回数が減ることにもなる。逆にSCの回数は、昨シーズン、10回もあったのに、今回は3回。ちなみにSC中はピットストップできるが、FCY中はピットストップ禁止。

このFCYやSC中のタイミングで、6時間過ぎにトップ集団から引き離されるシーンもあったが、1回目のSC導入時と当チームのピットストップのタイミングが合致。これでトップに躍り出ることができた。その後もSCが少ないため、当チームは1時間半走行を徹底するだけでなく、FCYによる燃費向上分だけタイミングを遅らせていくことができた。ドライバーも安定したラップタイムでラップを刻んでいく。折り返し点となる12時間経過時には、2番手との差を1ラップ以上に広げていた。

13時間が経過しようかという4時前には、最終コーナー奥に富士山が見えだす。当チームのAMGと2番手につけるBMWとの差は2ラップ。各ピット作業もほぼ90秒以内で終わらせ、レギュレーションで決められているメンテナンスピットストップ（10分ストップ）では、ブレーキパ

ツドの交換、各部のチェックを問題なく終わらせ、10分17秒でコースに送り出すことに成功。後方から追いつけてくるマシンがペナルティにより後退。さらに18時間が経過しようかという9時前にこの日、3回目のSC導入。このチャンスもタイミングよくピットストップができ、2番手との差を4ラップ以上にまで広がることができた。

しかし、勝利の女神はそんなに優しくはなかった。13回目のピットストップ時、ハブセンター部のトラブルから右後方のタイヤが組めず、5分以上のストップを強いられる。これで一気にリードを吐き出すことになってしまった。11時40分過ぎ、14回目のピット。さらにセンター部が悪化していて、40秒近くのロス。

チェッカーまで3時間20分。ピット内が一気に慌ただしくなる。

燃費的に2回のピットが必要。

Aドライバーの内田がレギュレーションで決められている15%以上の走行にまだ達していない。タイヤが外れない。外れたとしてもセットできない可能性が高い。そのままいくとなれば、3時間以上になる。ハンコックタイヤがどこまで持ちこたえてくれるか……。そんなデータはもっていない。

アライメントも狂ってきている。タイムアップも厳しい。ラップタイムの遅いST-5クラスのマシンをパスするには、どうしてもラインを外さないといけない。路面にはタイヤかすがあり、踏んでしまえば、激しいジャダーが発生する。

ドライバー、メカニック、エンジニアにより、ギリギリまで協議して出した策は、15回目のピットストップで内田にスイッチ。タイヤは3本のみの交換で送り出すことにし、最後の走行はマシンの状況が分かっている菅波がステアリングを握る。タイヤはフロント2本のみでいく。内田は必死の走りでラップを重ねていく。攻めればタイヤへの負担が増す。抑えて走れば、2番手のBMWが迫ってくる。前戦のSUGOラウンド同様、厳しい状況下での走りを強いられる。

残り1時間20分のところで菅波にスイッチ。90秒強のリードがある菅波。机上の計算ではBMWの2秒落ちでも逃げられる計算なのだが……。いつバーストするかわからない状況での走りだが、BMWのペースも思っていたほど上がらない。40秒を切るまで詰められたが、サインガードで待ち受ける内田、山内、小河。そして、メカニックの前をクラストップで駆け抜け、苦しい戦いに決着をつけた。

これで当チームのAMGは富士24時間、3連覇を達成。今シーズンのランキングでもトップに躍り出ることができた。

一時は楽勝とも思えるほどの展開だったのが、どん底に突き落とされた終盤。昨シーズン、学

んだチームの結束力で今シーズンも勝利をつかみ取ることができた。残り 3 戦もエンドレスらしい粘りのある走りでシリーズ 3 連覇を目指して突き進みます。

スタート 5月22日(土) 15時00分45秒(残り:24時間)

スタートポジション 3位 ドライバー 山内英輝

15:54~15:55 FCY 導入

16:11~16:13 FCY 導入

16:31 (残り:22時間29分) 48LAP 3位

PIT STOP 01 回目

ドライバー交代 山内→内田優大 タイヤ(ドライ)交換/給油

17:18~17:25 FCY 導入

18:11 (残り:20時間49分) 98LAP 2位

PIT STOP 02 回目

ドライバー交代 内田→菅波冬悟 タイヤ(ドライ)交換/給油

19:47 (残り:19時間13分) 149LAP 1位

PIT STOP 03 回目

ドライバー交代 菅波→小河 諒 タイヤ(ドライ)交換/給油

19:59~20:02 FCY 導入

21:27 (残り:17時間33分) 200LAP 1位

PIT STOP 04 回目

ドライバー交代 小河→山内 タイヤ(ドライ)交換/給油

21:35~21:37 FCY 導入

22:34~22:42 FCY 導入(SC導入に移行)

22 : 48 (残り: 16 時間 12 分) 238LAP 1 位

PIT STOP 05 回目 (SC 導入中)

ドライバー交代 山内→菅波 タイヤ (ドライ) 交換/給油

23 : 26~23 : 29 FCY 導入

5 月 23 日 (日) 00 : 32 (残り:14 時間 28 分) 290LAP 1 位

PIT STOP 06 回目

ドライバー交代 菅波→小河 タイヤ (ドライ) 交換/給油

01 : 22~01 : 25 FCY 導入

02 : 00 (残り: 13 時間 00 分) 340LAP 1 位

PIT STOP 07 回目

ドライバー交代 小河→山内 タイヤ (ドライ) 交換/給油

02 : 31~02 : 34 FCY 導入

02 : 46~02 : 48 FCY 導入

03 : 43 (残り: 11 時間 17 分) 389LAP 1 位

PIT STOP 08 回目

ドライバー交代 山内→菅波 タイヤ (ドライ) 交換/給油

04 : 16~04 : 19 FCY 導入

04 : 45 (残り: 10 時間 15 分) 420LAP 1 位

PIT STOP 09 回目 (メンテナンス ピットストップ/10 分間) (SC 導入中)

ドライバー交代 菅波→菅波 タイヤ (ドライ) 交換/給油/ブレーキパッド他 交換

05 : 50~05 : 56 FCY 導入

06 : 37 (残り: 8 時間 23 分) 469LAP 1 位

PIT STOP 10 回目

ドライバー交代 菅波→内田 タイヤ（ドライ）交換／給油

08：12（残り：6時間48分） 518AP 1位

PIT STOP 11 回目

ドライバー交代 内田→小河 タイヤ（ドライ）交換／給油

08：50（残り：6時間10分） 537LAP 1位

PIT STOP 12 回目（SC 導入中）

ドライバー交代 小河→小河 タイヤ（ドライ）交換／給油

09：05～09：09 FCY 導入

09：45～09：48 FCY 導入

09：44（残り：5時間16分） 562AP 1位

PIT STOP 13 回目

ドライバー交代 小河→内田 タイヤ（ドライ）交換／給油

10：00～10：04 FCY 導入

11：22（残り：3時間38分） 610LAP 1位

PIT STOP 14 回目

ドライバー交代 内田→菅波 タイヤ（ドライ）交換／給油

11：39～11：42 FCY 導入

13：04（残り：2時間56分） 662LAP 1位

PIT STOP 15 回目

ドライバー交代 菅波→内田 タイヤ（3本）交換／給油

13：41（残り：1時間19分） 681LAP 1位

PIT STOP 16 回目 ドライバー交代 内田→菅波 タイヤ（フロント側 2本）交換／給油

チェッカー 5月23日(日) 15時03分35秒979

走行時間: 24時間02分50秒979 LAP: 724LAP

ST-Zクラス1位

内田優大…………… 119LAP BEST: 1分50秒167

山内英輝…………… 183LAP BEST: 1分49秒190

菅波冬悟…………… 277LAP BEST: 1分48秒940

小河 諒…………… 145LAP BEST: 1分49秒489